



〈新型コロナウイルスの流行により活動へ影響したことはありませんか?〉

・お堂で食事の提供をする事ができなくなった時、食堂の開催をやめてしまうことは簡単だが、自分のやりたかったおせっかいとは違う方向だと感じた。持ち帰りをするこ
とで継続が可能だと考え現在も開催している。開店当時は認知度も少なく、準備した
数が多くたくさん余ったこともあったが、最近では多くの方に来店いただき足りなくな
ってしまうこともある。

〈衛生管理上の対応はどのようにしていますか?〉

・調理師免許を取得し、保健所へ営業許可を申請した。また、保険にも加入し衛生管理には十分配慮して食堂の運営をしている。
なお、参加者にはアンケートでアレルギーチェックし把握するようにしている。

〈活動への協力者や地域皆さんの理解はどうですか?〉

・地元である田ヶ谷地区の皆さんからは、畑でできた野菜や果物をいただいている。また、檀家の皆さんもお寺での活動を理解し、支援してくれている。多くの皆さんのご理解、ご協力により活動を継続することができている。

〈利用者への広報はどうしていますか?また、参加者の割合は?〉

・自治会文書での回覧や近隣の保育園に開催の案内を通知している。また、□□でも広がり多くの方に利用されている。

今年3月に行ったアンケートでは、参加者80名中子どもと大人がそれぞれ半分開の割合で、子育て世代の利用が多いことがわかった。参加者の地区と人数は、昨年12月の開催時には、菊川地区が74人、小笠地区が3人、市外が5人で82人(31世帯)だった。

〈利用者の反応はどうですか?〉

・年5回程度開催していますが、アンケートでは毎月開催してほしいとの要望もあり、嬉しく思っている。おかわりが自由で、美味しいとの良い評価をもらっている。

新型コロナウイルスの影響が前々回から利用者が増え、売り切れてしまいお断りし

たことがあり申し訳なく感じた。利用者には子育て世代が多く、1食でも節約できればという世帯が増えていることも増加した要因ではないか。

利用者の声

・市内から来ています。いつも美味しいカレーやお餅、お菓子をいただき、大変ありがたいです。ご飯の支度など家事に忙しい時に助かっています。
・コロナ禍で寂しく思うことが多いが、知らない方と話をして交流出来ることが良いことと思っています。



〈活動に必要な財源や食材、備品はどのようにしていますか?〉

・参加者への食堂開催の広報や炊飯器の購入の財源として、菊川市の1%地域づくり活